平成19年1月発行

JHNFA News
日・健・栄・協 ニュース
1月号

年頭所感

財団法人　日本健康・栄養食品協会
理事長　林 裕造

年頭にあたり、謹んで新春をお慶びするとともに、所感の一端を申し上げてご挨拶とさせていただきます。

健康の保持・増進への期待感から「健康食品」の使用が増大する一方、「健康食品」の摂取との関連が疑われる健康被害事例が増加し、「健康食品」の使用を警戒する動きも強化されています。このような状況下で消費者が「健康食品」に対して求めるものは、当然、ひとりひとりの消費者がそれぞれの健康目的に応じて、安全で有用な「健康食品」を正しく選択し、適切に使用できるような社会の仕組みであるといえます。その意味で、このような仕組みをどのように構築すべきかという観点から、当協会の事業目的と具体的な事業活動を見直す必要があります。

仕組みの第一は、食品企業が有用で安全な「健康食品」の研究・開発を科学的基盤に立って円滑に進める体制を整備することです。容易なことのように思えますが、この体制をつくる、もしくは強化するに当たって解決を要する大きな問題があります。先ず、「健康食品」の安全性を評価する指針が公示されていないのです。有用性の判断に関する問題はもっと深刻です。厳密にいうと食品の保健機能あるいは健康の保持・増進に対する食品の効果をどのように判断すべきかについての議論も十分であるとはいえないのです。

医薬品や食品添加物についてみますと、従来、これらの基本的な問題の解決を企業も消費者も行政上の規制、措置に求めていたように思われます。しかし、食品のように種類が極めて多く、且つ、複雑な組成をもつものについては、行政的に決められた一律の方法や基準値などによる規制には無理があります。この場合には、企業、企業団体、消費者、学識経験者が一堂に会し、個々の要件についてきめ細かい議論を重ねて基準値や指針などの案を示し、それに行政からの意見も加えて、最終的に企業と消費者の間で合意が得られ、行政的にも支持される結論を導くような民間主導型の方式が効果的と考えられます。民間主導に

（次頁へ続く）

CONTENTS

●年頭所感 …… 1
●「コエンザイムQ10食品」販売後調査について …… 2
●JHFA規格基準の見直しについてご意見を募集 …… 3
●第2回「特定保健用食品講習会」開催のご案内 …… 4
●教育研修委員会を開催 …… 5

各部の活動状況
健康食品部
●第22回素材勉強会のテーマは「ビタミンC」 …… 6
●JHFAマーク表示 新規許可製品 …… 6
特定保健用食品部
●部会活動状況 …… 6
栄養食品部
●メディカルフーズ（仮称）研究会開催 …… 7
・学術誌「健康・栄養食品研究」への論文投稿について …… 2
・横浜で IADSA（イアッツア） 主催 栄養補助食品国際ワークショップ開催 …… 3
・平成19年　新春賀詞交歓会のご案内 …… 4
・「食品保健指導士」の養成講習会　第21期のご案内 …… 5
・韓国出張報告 …… 5
・特定保健用食品表示許可 …… 7
・特定保健用食品表示許可品目などに関わる審査状況 …… 7
・入会・変更など …… 8
・会員名簿記載事項の変更届について …… 8
・会員数 …… 8
・『日・健・栄・協ニュース』へのアイディアを募集します …… 8